

## 衛生委員会報告

### ～第23回 町田市の防災対策について～

昨年の東北地方太平洋沖地震による震災から1年以上がたちました。  
震災後、各市区町村でも防災対策の重要性が叫ばれています。

今回は1月の非常災害時及び緊急対応研修や、町田市で開催された防災に関する各研修・講座に参加し、その中で説明があった町田市の防災対策に関する新たな情報について、ご報告致します

#### □備蓄について

- ・災害発生後、3日間は行政による十分な対応は難しく、行政が貯蔵している食料品も配給ができないため、各家庭最低3日分の食料と飲料水は備蓄しておいた方がいいが、支給される備蓄に関しては自宅が倒壊などして避難所で生活することになった方の人数を想定した分しかないので、現実的には4日目以降も行政による配給は難しく、実際には3日以上以上の備蓄を用意しておくのが望ましい

#### □重度の障がい者の支援について

- ・災害発生時、自宅が倒壊した場合や自宅での避難が困難・危険の場合は、障害の有無関係なく、まずは一次避難所に避難となる（体育館などでの生活が困難な場合、教室などへの移動の配慮もある）
- ・最初の3日間で二次避難所の受け入れ体制を確認・整備し、4日目以降から二次避難所が利用可能になるが、二次避難所に指定されている通所施設などは、普段から利用している障がい者が優先となる

#### □災害時要援護者支援マニュアルにおける個別支援計画について

- ・要援護者ごとの状況などに沿った個々の避難支援計画を作成していく
- ・作成は避難支援者、民生委員・町内会・自治会などが中心となり、要援護者本人の意向を尊重しながら、避難支援者（複数）、避難場所、避難経路、避難方法、情報伝達方法などについて具体的に話し合い、確認する  
（当事者が、もし個別支援計画を希望しない場合は作成しない）
- ・市役所で把握しているおよそ8300人の安否確認対象者リストの方の、個別支援計画の作成を今後行っていく

#### □災害時ボランティアについて

- ・災害発生後、現地の安全が確認された4日目ぐらいから、ボランティアセンターが設置され（場所は町田市中町にあるすみれ会館の予定）、公助では解決しにくい問題などに対して、必要なサポート・支援をしていく
- ・ボランティアセンターでは、ボランティア活動希望者・ボランティア派遣依頼の受け付け・管理を行い、ボランティア派遣を行っていく  
しかし、ボランティア派遣依頼の申し込み順でボランティア派遣を行うため、派遣まで時間が掛かることもある

#### □その他

- ・救助に来た救急隊員は、救助者の意識の確認が取れない場合、冷蔵庫を開けてペットボトルの中に入った薬やメモなどを確認することになっているので、救助時に救急隊とコミュニケーションが取れない状態の場合に備え、自分に関する情報を記入した防災カードや常飲薬がある人は薬をペットボトルに入れておくのも、救助隊員に必要事項を伝える一つの方法となる
- ・災害時に自宅で避難できている場合でも、正確な情報は避難所などにも集まっているので、近所の避難所などに災害に関する情報を確認しに行くことが必要

町田市としては、避難所には受け入れ可能な人数にも限りがあるので、基本建物の倒壊などが無い限りは、災害が起きてもまずは自宅で避難できるよう日頃から防災対策に取り組んでほしいとのことです。

又、町内会・自治会・自主防災組織に加入したり、日頃から近隣住民とのコミュニケーションを図りながら、いざという時に協力し合える体制「共助」を整えておいてほしいとのことでした。

#### □参照サイト

- ・町田市の災害対策

<http://www.city.machida.tokyo.jp/kurashi/bouhan/bousai/bousaitaisaku/saigaitaisaku/index.html>

- ・町田市・災害時要援護者支援マニュアル

<http://www.city.machida.tokyo.jp/kurashi/bouhan/bousai/bousaitaisaku/youengosyasien/saigaiiji.html>